

1 年の終わり

(37 号 2013 年 12 月 25 日)

1 年は早いもの、もう年末となりました。もう一週間もすれば新しい年、平成 26 年は始まります。この一年、ミニバスに関わる皆様には子どもたちへの指導や大会の運営等ご協力をいただき大変ありがとうございました。また、保護者の皆様には陰に陽にチームを支えていただき深く感謝をしております。交歓会の会場では子どもたちの躍動する姿を見て感動を覚えたのは私だけではないと思います。

さて、最近のミニバスケットボールの世界を見てみますと、いろいろと課題も浮かんできます。先ずは何と言っても指導者の資質向上ではないでしょうか。昔の指導者も現在の指導者もミニバスに関わるきっかけはそんなに違ってないでしょう。バスケットボールが好き、子どもたちが好き、指導が好きなど、その理由は今も昔も同じであると思います。しかし、昔のような指導だけでは現在では通用しないような気がします。ただ熱心に、指導者が体験してきたバスケットボールを子どもたちに押し付けるだけでは立派な指導者とは言えない時代になってきました。

今求められる社会教育としてのミニバスのあり方やそのための指導方法等を我々指導者は謙虚に勉強する必要があると思います。スポーツ少年団を初め、最近ではいろいろな団体から指導者のための教育プログラムが提示されています。自己改革に積極的に取り組んでいく姿勢が求められているのではないのでしょうか。

子どもたちを見ても、親の意識を見ても、昔とはずいぶん変わってきました。スポーツの場における人権感覚が問われています。それは、チーム員全員をそして一人ひとりを大切にするという気持ちがまず根底にあり、それぞれの選手の良さを伸ばしていくという意識が必要となっています。勿論、監督・コーチの一方的で暴君的な言動は論外です。

選手、指導者、保護者が信頼関係で結ばれ、みんなが高まっていく集団こそよい集団です。どこも強いチームを目指してみんな努力するわけですが、勝ち負けは結果であり、教育集団としてしっかり機能できたチームこそが立派な集団ではないのでしょうか。

今年を振り返ってみなさんのチームはいかがだったでしょうか。子どもたちはみんなバスケットボールを楽しめたでしょうか。もっともっとバスケットボールが好きになったでしょうか。

良いチーム作りは指導者だけの責任ではありません。保護者の皆様の協力や支持があってこそより良いチームになります。指導者と保護者が大人として子どもたちを真ん中に据えて理解し合うことが大切です。

今年度末まではまだ 3 か月あります。子どもたちが卒業するまでまだまだ時間はありチャンスは残されています。これからも全ての子どもたちが大いにバスケットボールを楽しんでほしいと願っています。